



学校だより

9月号

令和2年8月31日

横浜市立洋光台第三小学校

校長 金澤 智美

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai3/>

夏の思い出

こうちょう かなざわ ともみ
校長 金澤 智美

青い空に浮かぶ白い雲。セミの大合唱と太陽の光がぎらぎらと照りつける8月17日、夏休みを終えた子どもたちが元気に学校へ戻ってきました。8月半ばを過ぎたこの時期に登校が始まるのは初めてのことで、感染症と熱中症の双方への対策に配慮してのスタートとなりました。

「ねえ、見てみて。」校門前の樹木の根元に、直径2cm程の穴が無数に開いていることを、何人かの子どもたちが発見しました。「きっと、セミだよ。」今年は8月の梅雨明けと共に、セミの幼虫が一斉に土から出てきたのでしょうか。視線を上に移すと、1本の木に、何匹ものセミが止まり、思い思いに鳴き声を奏でています。セミは8月の風物詩であり、例年なら子どもたちのいない学校で、鳴き声を響かせていたのですが、今年はセミがいなくなる前に、全校で共に夏を過ごすことができました。

そのなかで、2年生は、生活科の学習で、「校庭で虫をさがそう」と網と虫かごをもって、木の幹や草むらを夢中になって探し回っていました。その姿に、自分も小学生のころ、夏休みになると昆虫採集に夢中になったことがあったと思出し、妙になつかしくなりました。私自身は、それらが



きっかけとなり、理科への興味や関心が生まれていったように思います。8月の虫探しの学習も、子どもたちの体験として、何らかの意味があることと信じています。

通常だと夏休み期間と重なり、一緒にできないことが、今年だからできるという利点は他にもありました。ヒマワリなどの植物や夏野菜、稲の栽培などがその一つです。年によっては、夏休み期間にそれらの生長の大事なポイントを迎えることもあるからです。その点では、今年は、ヒマワリや野菜の観察なども、大きな変化を見逃すことなく学習に活かすことができました。

そして、教室を回ると、国語の学習で学年に応じて、言葉遊びや詩、俳句などを用いて作った、「夏」をテーマにした作品に出会いました。どの学年の作品も、子どもたちの瑞々しい言葉が綴られていて、「なるほど」「そうきたか」と納得したり、吹き出したりしながら鑑賞しました。これも、夏が終わった後に書いたのではなく、今まさに夏を共に感じながら、友達と対話して互いに刺激し合うことで生まれた言葉なのだと思います。

夏休みが終わって2週間経ち、夕暮れには、セミに代わって秋の虫の声も聞こえてきました。残暑はしばらく続くことと思います。ご自愛ください。今後ともよろしくお願いいたします。